

広報いわたき

●発行者●

岩滝まちづくり協議会

TEL 31-1073

FAX 77-9409

メール

iwataki@hidataya.yama.ne.jp

まち協総会議案 可決しました

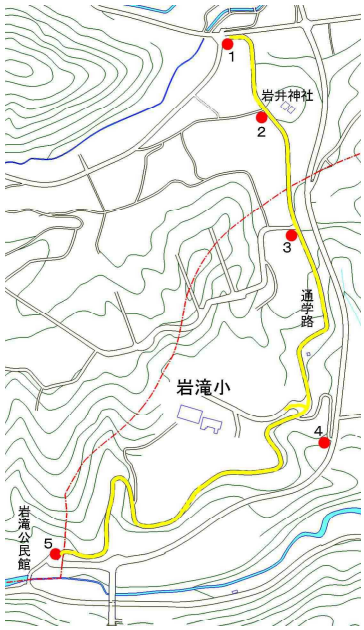
コロナウィルス感染の影響で、総会議案について皆様に書面表決をしていただき、可決いたしましたのでご報告します。

三密を避けるために集会を開くことができません、いくつかの事業はできなくなると思いますが、できる限りの事業を進めていきたいと思えます。



書面表決の結果

承認	81人
不承認	4人
未提出	15人



4月の安全安心部の役員会より、小学生の通学路について「今一度安全について再確認を地区の方、通行される方にしていただけないか？」と意見を頂き、高山市交通安全協会・高山警察署交通課の方々に相談させて頂き、交通課の方は「何とかしないといけない。」と言われたが、すぐに対応できるような課題ではないので少し時間を下さいと言われています。

また、こちらの方に相談あれば、まち協・町内会・岩滝支部の役員でよろこびと思っています。

しばらくは、大八賀駐在所の高橋さんが登下校時間に見回りして頂いています。

上の地図①⑤交差点に「これより通学路です。」ご注意ください。の様な物を立てたいと思います。一応案です。

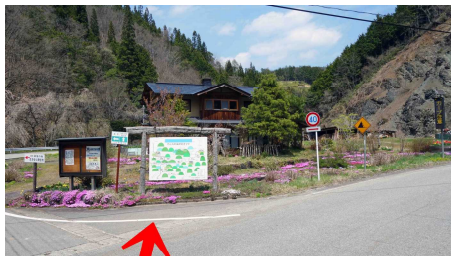
橋本英雄

高山市交通安全協会 岩滝支部よりお願い

4月の安全安心部の役員会より、小学生の通学路について「今一度安全について再確認を地区の方、通行される方にしていただけないか？」と意見を頂き、高山市交通安全協会・高山警察署交通課の方々に相談させて頂き、交通課の方は「何とかしないといけない。」と言われたが、すぐに対応できるような課題ではないので少し時間を下さいと言われています。

春花壇がとても きれいでした。

各町内の花壇や長寿会の花壇に、秋に植えたチューリップが美しく咲いていました。世話をしてくださった皆様ありがとうございます。また、左写真のような丹精込めた花壇もあり、



4月下旬
清水さん宅花壇



5月中旬 牧田さん宅花壇

今年の夏も
岩滝花壇コンクール
を行います。



クエスチョン

清水さん宅花壇のところに岩滝案内看板が立ててありますがご存じですか。ここには岩滝の見どころがたくさん紹介してあります。さて、看板左下を拡大すると、中曽洞あたりにこんな記号がありますが、何を表しているのでしょうか？

答えは次ページに。

ついで写真を撮ってしまいました。清水さん宅花壇は芝桜とチューリップが岩滝を訪れる人を迎えてくれていました。牧田さん宅は芝桜がボリューム感たっぷり行き届いていました。目を楽しませていただきましたありがとうございます。

さて、今年も岩滝花壇コンクールを実施します。

6月中旬に高山市から花苗がいただけますので、ぜひ長寿会・各町内の花壇を皆様の手で美しく飾りましょう。

近日中に各町内会班長と長寿会へ肥料をお届けしますので花壇整備にお使いください。

コンクールは団体の部・個人の部があります。

どうぞ応募ください。

賞品もたくさんやわいいます。



正解は



岩井城跡あとです。

中曽洞と本洞の間の、岩井公民館の裏山のてっぺんに、岩井城というお城があったんです。

4/22 岩井城跡探検

行ってみたいなと思っていたとき、森下治一さんが、「岩滝を訪れた人から、岩井城はどこにあるんですかと尋ねられても、地元の方が教えてやれない。一度調べてみんなに広報で知らせてやったらどうか。」と、岩井城の記載がある文献を何冊か持ってみえました。

ちょうど山の下で伐採をしてみえた竹淵繁三さんと話すと、案内してくださるといふことで、4月22日に中曽洞側から登って見ました。



当日は野中長次郎さんご一家も加わり6名で出発しました。(登ったコースは次ページ写真) 竹淵さんが作業してみえる林道の登り口(A)から入り、少し登ったところから笹原をかき分けて下(B)に降りて行きました。



B地点

道がないので、笹につかましながら進みましたが、この先の頂上まで道らしきものはありませんでした。笹原をおりたところに、昔水を汲んだと言われているところがあり、三角形をした黒っぽい岩肌のみえているところが水でぬれていました(C)。



C地点

ここからまっすぐ上の方へ登りましたが急斜面のため、立木につかまったり這うようにして進みました(D)。



D地点

のでしょいか。毎日城へ通ったのでしょいか。熊は出なからたのでしょいか。登りながらいろいろ考えてしまいました。さて、しばらく進むと、尾根のような地形になり、上へ向かって左右が下がって低くなりました。野中さんから、右手は馬場ヶ洞、左手は掘抜きヶ洞という地名を覚えてもらいました。また少し進むと、勾配がゆるやかになり、わりと平坦なところがあり、枯れた笹が敷き詰められていました(E)。



E地点 カモシカの寝床。 向こう側は馬場ヶ洞。

野中さんによると、カモシカはこうやって葉を集めて寝床にするそうです。



R2.4.22 中曾から登ったコース
(岩井団地貯水槽から撮影)

中曾洞側から見ているので、中央の山の裏手が本洞になります。

- A：林道登り口 B：林道から笹原へ降りる C：水汲み場の跡 D：急な斜面（道はない）
- E：カモシカの寝床 F：頂上の平らなところ H：堀切 V：本洞の眺めがよかった所



F 地点 頂上の平坦な部分

もう少し進むと急傾斜のところがあって、そこを越えると平坦な頂上（F）に出ました。幅は狭いですが20mくらい向こうへ続いた平らな感じのところ、笹が茂って松の木などもたくさん生えていていてわりとにくいですが、きっとここにお城があったのでしよう。城という有名な古屋城などの平野にある有名な大きな城を思い出しますが、ここは山の頂上を利用した山城です。皆のよう小さい規模だったのかもしれない。ここから、上の地図のHのほ



H 地点 U字形の堀切が画面奥のほうへ続いている

うへ細い道があったので行ってみました。H 地点には本洞側から軽トラが登ってこれるよう林道が延びてきていて、ちょうどH 地点には左写真のあゆみさんが指さしている堀切（ほりきり）がありました。

堀切というのは、敵が攻めてこれないようU字形の地面を掘り下げたもので、水がない掘り（ほり）です。土地が下がない掘り分、攻めにくいわけです。さて、林道はどこまであるのかと歩いていくと、上の地図のV 地点に着きました。



V地点 本洞を見下ろす展望台のよう

V地点はまるで展望台のように眺めの美しいところでした。遠くの山々にはたくさんのおふしの白い花が咲き、谷・畑・民家が小さく見えました。晴れていたら遠足に来るといいですね。さて、帰りは頂上から地図のG地点を通過して細い山道を降りてきました。

今日の探検にかかった時間は、登り始めて頂上までが40分。堀切や本洞を眺めて再び林道へ降りてくるのに20分。計1時間のコースでした。

いわい
岩井城跡 (和田城跡)

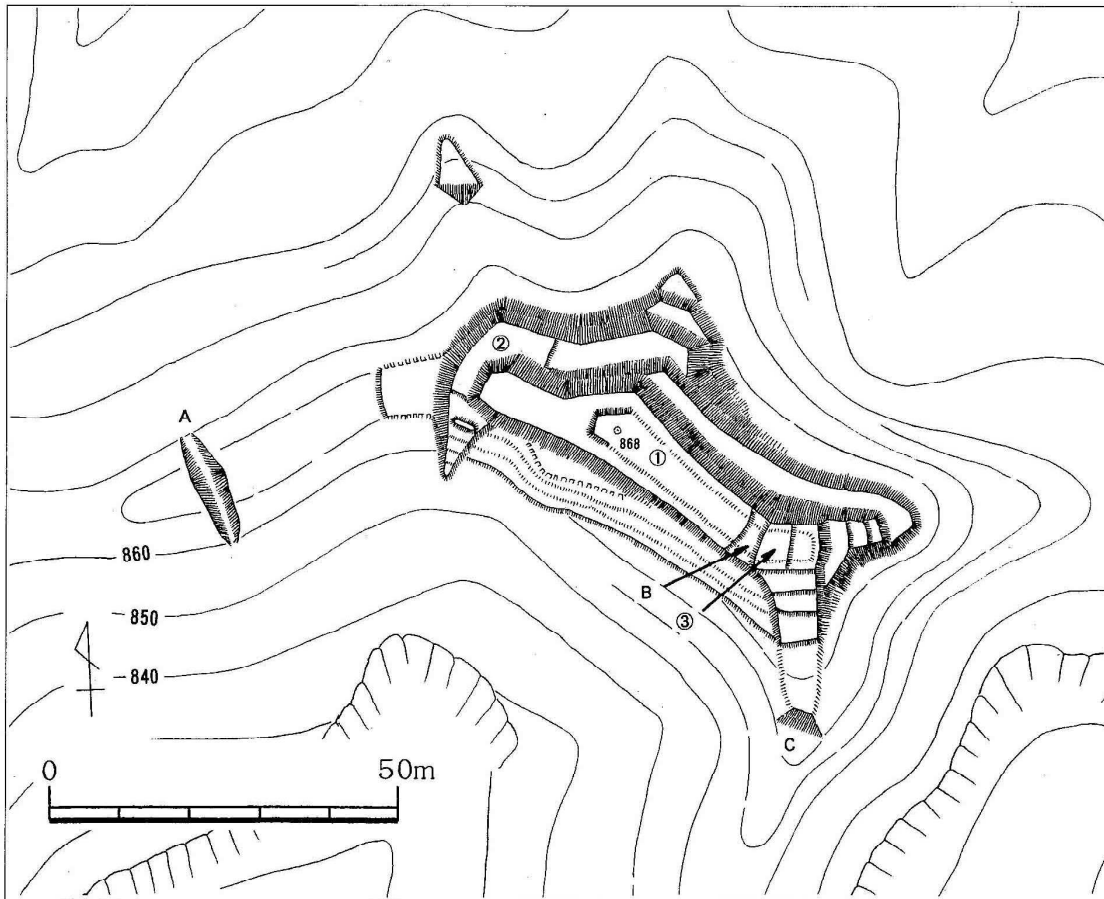
番号 (20322) 分布図頁 (39)

岩井川と大八賀川の合流点に築かれ、細長い尾根上にあるため両側は急峻な地形となっており、天然の要害である。『定本飛騨の城』によれば、南北朝時代、楠和田氏の後裔と称する和田新右衛門尉正武という武士がいて、室町初期頃滝・生井・岩井を押領して土豪となり、天文頃三木直頼に攻められて滅ぼされた、あるいは帰農したと伝えられている。

城内最高所の①曲輪が主郭である。東端の③曲輪との間に小規模な堀切Bを設けている。西の尾根続きには堀切Aや①・②曲輪の切岸を設けて、敵の攻撃を遮断しているのに、東の尾根続きには、堀切は設けておらず、また、階段状に削平地を設けているものの、それぞれの段は低く、遮断設備にはなりそうもない。南の尾根続きも、切岸Cとほとんど段差がない削平地を設けているのみである。この縄張りから検討すれば、西の尾根続きに主眼を置いていた縄張りとして理解できる。美女峠から大八賀川を溯ってくる敵の攻撃を警戒していたのであろう。基本的には段の城であり、注目すべき遺構は見られない。(佐伯)

岩井城跡の測量図

実際に登ってみて、おおよその様子は分かりましたが、下は笹



(略測図 縮尺=1/1000 佐伯 作図)

が生い茂って地面の形状が見えず、城の範囲がどの程度のもなかったか分からず困っていたとき、高山市史編纂専門員の田中彰先生から、以前佐伯哲也氏が

測量して調査されたときの論文が岐阜県教育委員会から出されていると、左記のような資料(一部)を紹介していただきました。

5/7 ~ 12 岩井城跡調査

本洞側からついでに林道から登って、測量図と照らし合わせながら調査してみようと、草刈り機・巻尺・カメラを持って出かけました。



佐伯氏の測量図を少し右回転して縮小してのせたものです。路肩崩落の所の手前S地点から巻尺で測りながら調べました。S：調査開始地点 H：大きな堀切Aが林道と接する地点 SからHまで120mありました。V：本洞の眺めがよかった所
岩井公民館は、右手から張り出した山の先端にあたります。4/22の探検は、画面上の中曾洞側から道のないところを登りました。

説明のため、調査した結果を先に示したのが左上の写真です。佐伯氏の測量図をこのように重ねると、調査結果とよく一致することがわかりました。
城の部分を拡大したのが次ページの写真です。小さな曲輪アジの記号や、測定した距離を書き込んであります。
以後、図中の記号と写真を使って岩井城の調査結果をお知らせします。

右の土手は白っぽい砂岩質の崩落現場の土を手にとるとサ



向こうの55m地点は路肩が崩落しています。

② 40m地点



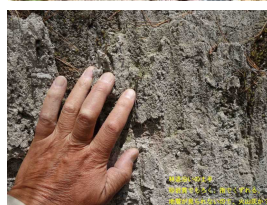
山頂から尾根を降りてくるとこのS地点になります。

① SからHまでを調査
調査開始地点(S)

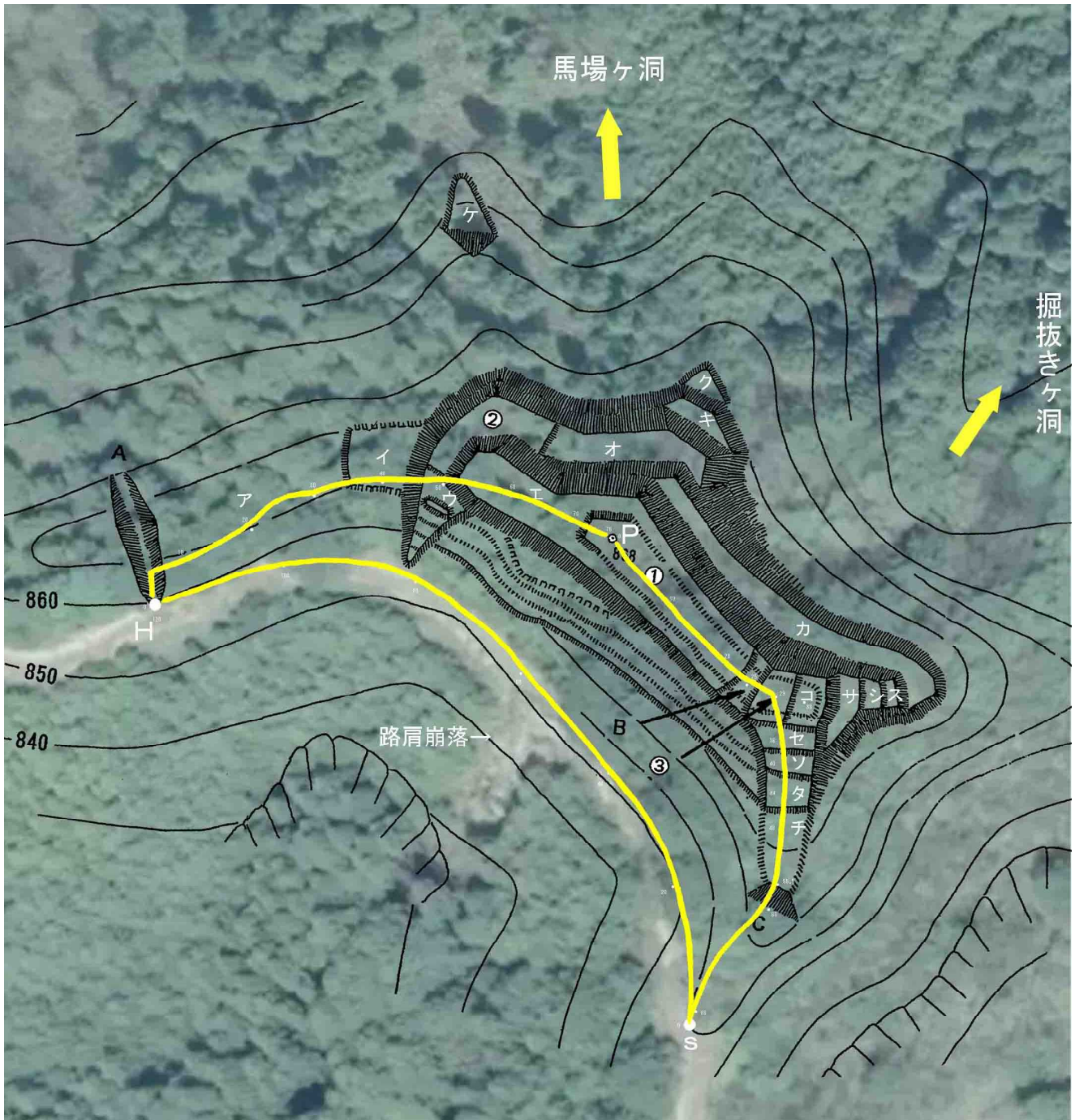


堀切A 断面は大きなU字形

③ H地点 120m



ラサラした砂でした。土手の岩石をさわると指でこすっただけでポロポロとくずれてきました。層状になっていないので火山灰が積もってできた土手のようです。



S : 調査開始地点 H : 堀切A (林道沿い) P : 山頂 868m A : 堀切 B : 堀切
 C : 切岸 ①②③およびア~チ : 曲輪
 数字は巻尺で測った距離 SからH : 120m HからP : 76m PからS : 84m



向こうの草刈り機を立ててあるところが、イ曲輪と②曲輪の間の切岸

HからPまでを調査
 H地点を0mとして巻尺で測定しました。
 ④ 30m地点

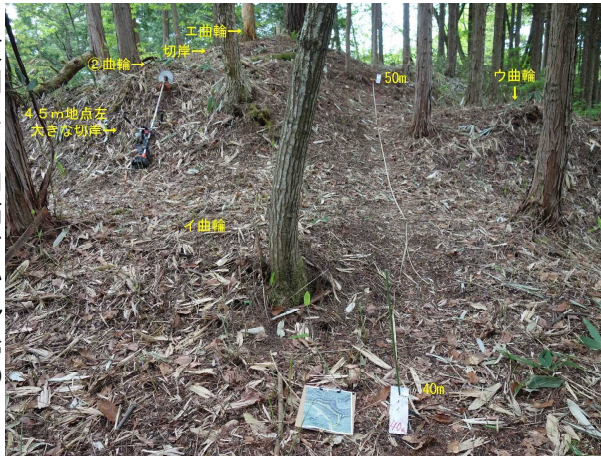


岩井公民館側から尾根伝いにくる敵に対して、堀切は横向きにのびて、深く掘られています。

笹を刈ってしまうと見事な堀切Aが現れました。
 この堀切の上にながたって横から見たのが左の写真です。

尾根伝いの細いけもの道のよう
なゆるやかな道を進み、30
m地点から40m地点を見た写
真です。40m地点から50m
地点にかけて左右にイ曲輪・②
曲輪・ウ曲輪・切岸が見え、そ
の高台には工曲輪の平坦な部分
が見えます。

⑤ 40m地点



左側にイ曲輪、少し先の45
m地点に草刈り機の立ててある
大きな切岸があり、その上が②
曲輪です。②曲輪は幅が狭いの
で平坦になっているところはこ
こからは見えません。

その上50m地点左には小さ
な切岸があり、その上に工曲輪
があります。

50m地点の手前右側にウ曲
輪が小高く見えます。ウ曲輪は
土を盛ったような形になって
右下へ向かって三角形になって
います。先端は下の林道へ張り出してい
ます。

⑥ 50m地点



50m地点に立つと、左に②
曲輪があり、その先を右側に回
り込むと奥に才曲輪があります。

②曲輪・才曲輪の上には切岸
があり、草刈り機を立てかけた
くらいの高さがありました。

この草刈り機の刃のところか
ら見ると、工曲輪が奥へ向かっ
て細長く続いていました。

⑦ 工曲輪と落差の大きい切岸



工曲輪の向こうの70m地点
の先の大木の根元が山頂①曲輪
になります。
工曲輪は尾根に沿っているの
で幅が狭く、左右へ斜面が下っ
ていました。



とくに68m地点左側は落差の大きい急傾斜の切岸で、容易には登れません。

切り岸の表面は落ち葉や土砂が覆っていたので、手で払い落してみると、切岸の表面はとても平らできれいに削り落としたことが伺われます。

路肩崩落現場で見たようなものい砂岩質の火山灰に似た岩盤で山ができていたので、切岸を造るには削りやすかっただろうと思われまます。

⑧ 70m地点



70m地点は小さな切岸になっており、ここを登った上が①曲輪になります。切岸は短くゆるい斜面でした。

写真中央の太い木の根元が山頂です。

⑨ 山頂Pと①曲輪
H地点から山頂のP地点まで76mありました。

PからSまでを調査

①曲輪が山頂の重要な曲輪で、主郭と呼ばれています。工曲輪と似ていて、向こうへ幅狭く平らな部分が広がっています。



写真奥のPから25m地点が測量図の堀切Bになります。

⑩ キ曲輪

山頂から左の方へ切岸を降りていくと才曲輪があり、才曲輪から切岸になって、その下がキ曲輪です。

キ曲輪へ降りる切岸は、写真の草刈り機のあるところで、急



傾斜です。

キ曲輪は中曽洞側へ向かう尾

根にあたり、4月22日の探検でのぼってきたところです。写真の中央が尾根で、向かって左手が馬場ヶ洞、右手が掘抜きが洞になります。

⑪ ①曲輪の展望

①曲輪のまわりは木がたくさん生えていて遠くの景色はあまり見えませんが、岩井団地の高いところにある貯水槽が白く見え、さらにその遠方にある大尾根方向には生井のビニルハウスが少し見えました。



①曲輪からの遠景（中央の白い部分が岩井団地貯水槽）

右の写真のように画面の左右にわたって土地が低くなっています。堀切Aに比べると浅い堀



①曲輪の、Pから25m地点が堀切Bです。

岩井城があったとき、①曲輪のまわりの木は綺麗に切ってしまっていた。それとも敵に見つかからないように生えたままにしていたのでしょうか。位置から考えて、切ってしまった

③曲輪の向こうの少し下がった33m地点の所に小さな曲輪があります。さらに奥にサ曲輪があります。

①4 セ・ソ・タ・チ曲輪 ③曲輪から右下へ尾根に沿って降りていくと小さな曲輪が続きます。曲輪の境の切岸が小さいため境が分かりにくいです。その下にある切岸Cは角度はゆるいですが大きな切岸です。



長い広報になってしまいました。コロナウィルスの影響で家にいることの多い毎日です。どうぞ根気にお読みいただくとありがたいです。

岩滝にもこんな場所があったんだと知っていただけると調べたいがあります。もし現地を見たいという方がありましたら今なら笹も短く見やすいので、岩滝公民館の木谷までご連絡ください。ご案内します。



切岸C



セ・ソ・タ曲輪



本洞側から見た岩井城の位置はこの辺りです。